

### \* 国立天文台（東京天文台）のポプラ並木について

東京天文台時代のある時期には天文台構内には立派なポプラ並木があったのである。北海道大学のポプラ並木（写真1：札幌市の公式観光サイトから）が有名で、筆者が庶務理事をしていた頃、北海道大学で初めての天文学会が開かれた昭和50年（1975年）、そのポプラ並木を見て「なんだ！東京天文台のポプラ並木の方が立派ではないか」と思ったのは早35年も昔のことである。北海道大学のポプラ並木は、明治36年（1903）、大学の前身旧札幌農学校の農場内に実習用に植えられたのが始まりといわれている。樹齡はその頃70年を超えていた。



写真1 北海道大学のポプラ並木

北海道大学のホームページによると、平成16年（2004年）9月の台風18号により、半数近くのポプラが倒壊し、倒木の立て直し、若木の植樹が行われたとある。

東京天文台のポプラ並木は、それほど有名でもなかったこともあり、台風で倒れてもその立て直し、若木の植樹も行われなかった。そのため1975年頃には北海道大学のポプラ並木を凌ぐほどであった東京天文台のポプラ並木は現在3本が残るのみという惨めなことになっている。

現在の台長は、国立天文台の桜並木の行く末を心配していると聞かすが、ポプラ並木の轍を踏まないよう願うばかりである。東京天文台のポプラ並木が北海道大学のポプラ並木を凌ぐほどであった時代の写真を杉崎さんのアルバムに発見したのである。東京天文台時代のある時期には、ゴーチエ子午環の南北の子午線標の東側の通りが立派なポプラ並木であった。子午線標はゴーチエ子午環の本体から南北100m離れて設置されていたから、このポプラ並木は200m以上の長さがあったはずである。筆者が懐かしいのはこのゴーチエ子午環の子午線標の東側のポプラ並木ではなく、大沢台小学校に通う子供たちの通学路沿いにあった、一本杉脇の祠に向かう道路沿いにあったポプラ並木である。

北海道大学のポプラ並木は1か所だが、東京天文台のポプラ並木は幾筋もあり、北海道

大学のポプラ並木は 50m であったが東京天文台のそれは 200m 以上あった時代があるのである。その東京天文台のポプラ並木は、今は見る影もない。昔の祠に向かう道に 3 本が残る

のみである。杉崎さんのアルバムにあったポプラ並木の写真が写真 2、3、4 である。



写真 2 祠に向かうポプラ並木路



写真 3 子午線標に沿うポプラ並木路

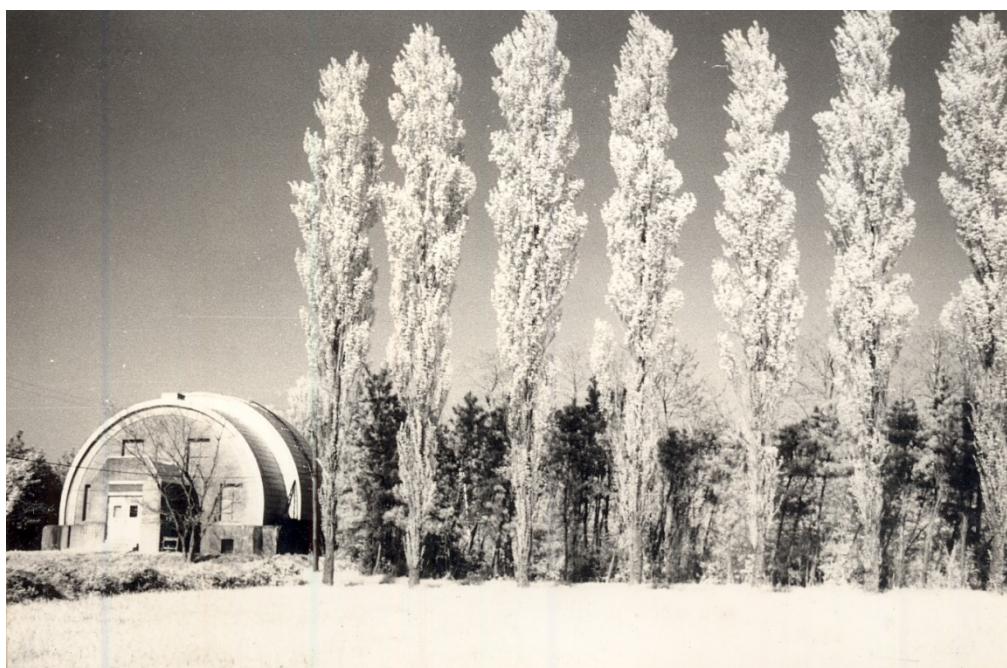


写真 4 ゴーチエ子午環とポプラ並木

筆者も三鷹に転勤した直後に撮ったポプラ並木の写真がある。



写真5 筆者が撮った天文台のポプラ並木

杉崎さんの写真にも通学児童を撮ったポプラ並木の写真があった。



写真6 杉崎さんのポプラ並木路 富士山が見える

やはり、杉崎さんの写真には芸術感がある。さらに 10m パラボラ電波望遠鏡を配したポ

プラ並木の写真7もある。



写真7 昭和45年の10mパラボラとポプラ

写真8は富士山をバックのポプラ並木路である。



写真8 富士山をバックにポプラが並ぶ

この杉崎さんの写真にあるように、かつては東京天文台構内にこのように四季折々に特徴的な姿を見せるポプラ並木があったのである。東京天文台は天文学を研究することが本来の目的であって、農学校のように実習として樹木を植え、育て研究する必要はないが、このような素晴らしい景色があったことも事実である。そして台風が来るたびにその数を減らして顧みることにはなかったのである。もう2枚ほど写真を紹介しよう。



写真8 左端が祠があった一本杉（すでに枯れている）を囲む榎とポプラ並木



写真9 子午線標通路に沿ったポプラ並木路